

4年 総合的な学習の時間

大観のまち守り隊！

～ おじいさんやおばあさんの力になろう ～

指導者

研究テーマに関わる具体的視点

軸となる体験

- (1) 図書資料や新聞やインターネットで調べたり、高齢者にインタビューしたりすること
- (2) 高齢者の疑似体験をしたり、高齢者の力となる活動を実行したりすること
- (3) 学んだことを家族や大観小学校児童、まちの高齢者に伝えること



単元における言語活動

<もとめる①②③>

- 安心・安全の視点で調べて得た情報を、ノートや模造紙にまとめる。
- 活動ごとのふり返りをノートにまとめる。

体験を価値ある経験にする伝え合いの時間（本時）

☆大観校区に住む高齢者が困ったり、不安に思われたりしている事を明らかにして、安心な暮らしの実現に必要な取組や心構えについて考え合う。

<もとめる④>

- 学んだことを伝える資料を作成する。

1. 単元の目標

- 大観のまちの高齢者福祉に関する課題を見付け、安心な暮らしの実現には、互いのことを考え助け合うことが大切であることを理解する。 <知識及び技能>
- 安心な暮らしの実現に向けて、見通しをもって情報収集を行う中で、得た情報を整理分析し、自分の考えを相手や目的に応じて表現する。 <思考力、判断力、表現力等>
- 安心な暮らしの実現のために、他者の考えを受け止めながら活動し、大観のまちや人を大切にす意欲を高めて、自分にできることを考え続けようとしている。 <学びに向かう力、人間性等>

2. 単元について

「継続力！協力！挑戦力！」という学級目標には、苦手なことにも諦めずに挑戦したい！困っている友だちがいたら助けたい！という児童一人ひとりの思いが詰まっている。今年度最初の総合的な学習の時間では、「去年、野鳥レンジャーになった人はいますか？」という担任の問いかけに、全員が勢いよく手を挙げた。そして、3年生の頃、野鳥レンジャーになるため、本や図鑑を用いて、野鳥やまちの自然について調べたり、専門家に話を聞いたりして分かったことを、家族にポスター等で伝えた経験を生き生きと誇らしげに話す姿があった。また同時に「大観のまちのことをもっと知りたい」「学んだことは、誰かに伝えたい」という思いや願いが出てきた。3年生後半の社会科では、安心安全な暮らしに関わる仕事として、警察や消防、スクールガードの活動について、教科書を中心に学習している。その学習を起点にし、1学期は、大観のまちが、本当に安心安全であるかを自分たちの目で確かめるため、校区探検に出たり、警察官やスクールガードに直接質問する会の設定を担任に申し出たりするなど、現状よりも安心安全なまちにしたい！という思いのもと、活動する児童が多く見られた。その一方で、自ら課題を見出し、その解決に適した情報を取捨選択することや、自ら他者と関わって活動することができにくい児童も少なくない。そこで、各教科の学習において、調べる目的や方法を個別に確認す

る時間や数人で話し合う形態を、2学期以降は随所に取り入れていくことで、個々が学んだことを活用できるサイクルの構築を進めている。また、家庭や学校で見聞きする新型コロナウイルスについての情報に不安を抱き、まちの高齢者の方に直接会いに行くことを控えている様子もうかがえる。

本単元『大観のまち守り隊！～おじいさんとおばあさんの力になろう～』は、「まちに住む高齢者の暮らしを助ける取組」を探究課題に、自分たちの登下校を見守ってくれているスクールガードとの関わりを通して、まちに住む高齢者の困り事や、まちを大切にしたいという願いに共感し、人と人が助け合う意識を高めることをねらいとしている。大観校区を南北に分けると、南側は瀬戸内海に面した漁師まちで、高齢者の占める割合が高い。警察官やスクールガードとの質問会を通して、大観のまちに高齢化による後継者不足の問題があることに気付いたり、自分たちの安心のために力を注いでくださっている方々の思いを感じ取ったりすることができると考えている。また、高齢者体験によって、高齢者の身体的な大変さの一部分を味わうことは、高齢者の困り事を想像だけの理解に止めず、自分に引き寄せて考える一助となるだろう。そして、これらの体験は、高齢者の方々に対する感謝の気持ちを大きく膨らませ、高齢者一人ひとりの苦労や思いや願いに寄り添う姿勢につながることを期待できる。児童が、大観のまちの良さや課題と向き合い、高齢者の方々の方力になろうと一生懸命に考えて行動した経験は、まちの一員として、自分にできることを考え続けるきっかけとなり、これから先、全ての人の安心に発展していく単元だと考えている。

指導に当たっては、単元全体のあらゆる場面で、コロナ感染予防対策が必須となる。当然、児童の活動に制限をかけねばならない状況が出ることも予想される。ただ、このような状況だからこそ、安心や不安に対する共感を生むであろう出来事には、時間を惜しまず立ち止まりたい。その小さな積み重ねは、単元のねらいである「人と人との日々の関わり的重要性」に、児童自らが気付き、考えを深められる糸口になると考えている。「つかむ」段階では、近年の明石市における交通事故や犯罪の数を提示することで、児童がもつ大観のまちが安心安全だという思い込みと現実とのギャップを生み、学習への動機付けを図るようにする。そして、学習のゴールにもなる単元名や、その達成のために実行したいことを出し合い、今後の活動への大体のイメージを共有する。また、探究カレンダーに「実行すること」を記し可視化することで、見通しをもって活動できるようにする。次に、「もとめる①」段階では、高齢者の方を招き、児童の質問にだけでなく、普段の暮らしの中で困っていること、嬉しいことについても語ってもらうことで、その人柄にも迫り、より一層学習意欲を高められる一助とする。また、インタビューに加え、図書資料や新聞記事などを活用している児童のノートを取り上げ広めることで、多面的に物事を捉えられるようにする。高齢者体験については、児童と教員で校内の安全な場所を決め、1週間という期間と使用時の約束事を全体で確認した後、何度も繰り返し体験できるようにする。その繰り返しにより、年齢を重ねることで起こる身体的な変化と関連付けて、出会った高齢者の困り事を少しでも感じられるようにする。「広げる・深める②」段階（本時）では、「どうすれば、もっとおじいさんやおばあさんと仲良くなれるかな」など、伝え合いの課題を設定する。そして、児童から出てくる問題点を、物と心という観点で分類することで、日頃のまちの人同士の関わり的重要性や、安心に向けた具体的な活動について話し合えるようにする。また、スクールガードからのお礼の手紙や、高齢者の思いや願いが掲載してある新聞記事を紹介し、次時への意欲を高めたい。「もとめる③」段階では、「広げる・深める①②」をはじめ、全体で共有してきた内容をまとめた学びの足跡（板書等）である写真資料を適宜提示し、これまでの活動やゴールを常に意識しながら、伝える計画から実行までを進められるようにする。途中、これまで伝える会を経験している5年生の体験談を聞く機会を設定する。その中で、伝えるべきテーマ別に分かれて活動する利点が与えられることが予想される。その場合、日々の当番や係活動で役割分担がうまく機能した経験を想起させ、個々が自信をもち、グループ活動を進められるようにする。最後に、「まとめる」段階では、これまでの学びを伝えた方々から感想をもらい、児童一人ひとりが、自分の学習の歩みに対する達成感や大観のまちを大切にしていこうという意欲を高められるようにしたい。

3. 単元の構想 (54 時間)

関連教科等の資質・能力	○学習活動 “予想される児童の気付き”	主な評価規準
<p>【社会】(3年生) 地域の安全を守る諸活動について、人々の生活との関連を踏まえて理解する。</p>	<p>○課題解決に向けた見通しや自分につけたい力のイメージをもつ。 “今よりも最後までやりぬく力をのばしたい。” “大観のまちも事故や犯罪が起きているんだな。知らなかった。” “今よりもっと、安心できるまちにしていきたいわ。” “警察官やスクールガードさんにも、話を聞いてみたいわ。” “安心できるまちになるように他の人にも呼びかけたいわ。”</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>大観のまち守り隊！ ～おじいさんとおばあさんの力になろう～</p> </div>	<p>課題解決に向けた見通しや自分につけたい力のイメージをもつ。 <主></p>
<p>【社会】 調査活動、地図帳等の資料を通して、必要な情報をまとめる技能を身に付ける。</p> <p>【理科】 植物の成長について、観察したことを図や表、グラフなどを用いて整理し、比較してまとめる技能を身に付ける。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自分の課題を調べて解決しよう</p> </div> <p>○図書資料や新聞やインターネットで調べる。 “どのような事件や事故が多いのかしら…” “道路の標識について調べてみることにするわ。”</p> <p>○まちの安全・安心に携わっている警察官やスクールガードにインタビュー活動をする。 “どうして、スクールガードをしてくれているのですか。” “スクールガードをされて、困っていることはありますか。” “事故や事件が、起こりやすい場所ってあるのですか。”</p> <p>○安心・安全の視点で、実際にまちを探索する。 “この段差は、自転車では危なそう。僕も、こけたことがあるわ。” “ここは明かりがなくて、夜は特に危ない気がするわ。”</p>	<p>集めた情報を適切な方法で整理・分析することができる。 <思・判・表></p> <p>自分の考えを他者に話したり、聞いたりしている。 <主></p>
<p>【国語】 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶ。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>警察官やスクールガードの心配事って</p> </div> <p>○警察官とスクールガードへのインタビュー活動で分かった問題点を出し合う。 “警察は、事故や犯罪を減らすために、パトロールを増やしてくれている。” “Eさんは、耳が聞こえにくくなってきたって言っていたわ。” “長い時間、立ち当番で立ち続けると、身体がしんどいって。” “スクールガードの後継ぎが減っているから増やしたい。” “私たちの親も、スクールガードをしてくれたら…。一度家で聞いてみようかな。” “自分たちが、まずは通学路を守っていきようよ。” “大観まちには、実際に高齢者の方がどのくらいいるのかな。” “まだまだ調べることがいっぱいあるわあ。”</p> <p>○次時からの活動の見通しを書きまとめる。</p>	<p>集めた情報を適切な方法で整理・分析することができる。 <思・判・表></p> <p>自分の考えを他者に話したり、聞いたりしている。 <主></p>

	もとめる②13H	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分の課題を調べて解決しよう</div> <p>○図書資料や新聞やインターネットで調べる。 “大観のまちには、どれくらいの高齢者がいるのかな。” “お年寄りのことについて一度調べてみよう。” “雨の日でも大丈夫なポスターを作って貼るわ。”</p> <p>○まちの高齢者にアンケート調査をする。 “やはり、不安を感じている人もいるね。” “Yさんは、食材を家まで持ってきてもらうようにしている。” “若い人が増えたら、もっと元気なまちになるかもって。”</p> <p>○高齢者（体感や視界）の体験をする。 “Aさんは、この広さしか見えていないってこと？” “低い段差も、Cさんにとっては大変だよ。知らなかったなあ。” “このような中で、毎日スクールガードをしてくれているんだ。”</p> <p>○自分が考えた力になれることを実行する。 “ポスターを貼ってもいいのか、確認を取りに行こうよ。” “スクールガードの募集を進めているけど…” “健康な食物を伝えたい人で、一緒に一冊の本を作ろうよ。”</p>	
<p>【国語】 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶ。</p> <p>目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの共通点や相違点に着目して考えをまとめる。</p>	広げる・深める②1H	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(本時) どうすれば、さらにおじいさんやおばあさんは安心できるのかな</div> <p>○問題点を出し合う。 “一日の中であまり人と会わないこともあるって。” “近所付き合いが減ってきていて、不安があるって。” “もっと仲良くなっていきたいなあ。”</p> <p>○仲良くなるために必要なことについて話し合う。 “まわりに呼びかけだけで、おじいさん、おばあさんは本当に助かるかしら…” “体に健康な料理を作って食べてもらうのはどうかしら？” “しんどいことを手伝ってあげたいな。お手伝いとか。” “人それぞれ、困っていることも好きなことも違うし、その人に合わせて考えることが大切だわ。” “私も、となりの家の人とあまり話したことがないわ…” “もっともっと挨拶を広げていけたら安心できると思う。”</p>	<p>大観に住む高齢者の困っていることを明らかにして、高齢者の安心に必要なことを考えることができる。 <思・判・表></p>
<p>【国語】 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことの中心を捉えて自分の考えをもつ。</p>	もとめる③10H	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">おじいさんやおばあさんの力になろう</div> <p>○自分が考えた「お年寄りの力」になれることを実行する。 “スクールガードになってくれる人が出てきたよ。” “学校のお便りを届けるチームをつくろう。” “昨日、AさんCさんに健康にいいレシピ本を届けたら、とても喜んでくれたよ。” “私たちの届けたものって、本当に役に立っているかしら…” “まちや高齢者のことを、家族や全校生に知らせよう。” “Bさんと、朝、出会ったら挨拶をお互いにするようになったの。嬉しいわ。”</p>	<p>相手に合うと考えた方法で、高齢者への活動を実行する。 <思・判・表></p> <p>友だちとアドバイスしながら活動している。 <主></p>

<p>【国語】</p> <p>目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの共通点や相違点に着目して考えをまとめる。</p>	<p>広げる・深める</p> <p>③ 2 H</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">伝える相手、内容、方法を決めよう</p> <p>○伝える相手について確認する。 “6月にも言っていたように、私たちの近くにいる大観小学校の子、家族、まちの人たちに伝えていこう。”</p> <p>○必要な内容について話し合う。 “まず、大観のまちには、優しいおじいさんおばあさんが、たくさん住んでいることを伝えたい。” “まちの人同士が、気軽に挨拶し合えることが大切だよって伝えるわ。” “まちやご近所さんで助け合うことが大切だと知らせよう。”</p> <p>○伝える方法について話し合う。 “私たちが実際にしてきた活動を、本や新聞にまとめよう。” “本や新聞では、本当に伝わったかどうか分かりにくいかな。” “学校に来てもらって直接紹介できないかな。今は無理かな。” “その準備をどんどんしていこう。”</p>	<p>相手に伝えたい内容を整理して、まとめられる。</p> <p>学んだことが、相手により伝わる方法を選択することができる。</p> <p><思・判・表></p>
<p>【国語】</p> <p>自分の考えと理由や事例との関係を明確にして書く。</p>	<p>もとめる</p> <p>④ 10 H</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">守り隊の活動してきたことを伝えよう</p> <p>○守り隊の活動を、家族や大観小学校の児童へ伝える。 “コロナの心配があるから、大きな会を開くの無理だけど…” “まず、おじいさん、おばあさんが困っていることも知らせよう。” “やはり、何度も読める新聞やパンフレットは効果的だね。” “ぼくは、防寒着と熱中症対策のところを担当して話すわ。” “伝えた人や、おじいさんやおばあさんから感想を教えてもらえたらいいなあ。”</p> <p>○活動をふり返る。 “おじいさん、おばあさんが笑顔で話してくれたから、少しは力になれたかな。” “Bさん、わざわざ、お礼のお手紙をくれたのね。嬉しいね。” “AさんCさんの感想を聞けて、本当によかった。嬉しいわ。”</p>	<p>学んだことを、相手に応じた方法を選んで、伝えている。</p> <p><思・判・表></p> <p>友だちと協力して、高齢者への活動を計画実行している。</p> <p><主></p>
<p>【道徳】</p> <p>思いやり・感謝・社会参画</p> <p>【国語】</p> <p>自分の考えと理由や事例との関係を明確にして書く。</p>	<p>まとめる</p> <p>2 H</p>	<p>○活動全体をふり返り、学んだことを伝え合う。 “普段から、近所の人との挨拶を大切にしていきたい。” “おじいさん、おばあさんと前よりも、ちょっとは仲良くなれた気がする。”</p> <p>○自分自身の学びをふり返り、作文する。 “自分で伝えたいことを決めて、伝えることができた。” “おじいさんやおばあさんを元気にするために、実際に協力して活動できてよかった。” “もっと、みんなが安心できるまちにしていきたいわ。”</p>	<p>安心な暮らしには、人々の助け合いが必要だと分かる。</p> <p><知・技></p> <p>まちをより良くしようと考えている。</p> <p><主></p>

4. 本時の学習 (30/54)

(1) 目標

○お世話になっている高齢者を元気にするためには、高齢者一人ひとりとの普段からの関わりが大切であることに気付くことができる。

(2) 展開

児童の活動 ・予想される児童の気付き	○指導上の留意点 ☆評価規準	備考
1. 前時の学習をふり返り、本時の学習の見通しをもつ。	○学習課題を確認して、主体的に学べるようにする。 ○これまで出会った高齢者の写真をモニターに映し出すことで学習意欲を喚起し、高齢者一人ひとりに対する不安があることをおさえる。	<全体> 映像資料
どうすれば、もっとおじいさんやおばあさんと仲良くなれるかな		
2. 解決策を出し合う。 ・手伝いやお話しタイムをする。 ・これまでみんなが作ってきたものを、本にしてわたそうよ。 ・一緒にパーティーはどうか。 ・今から挨拶をしていきたい。	○ノートを見直すように声をかけ、高齢者の困り事を想起できるようにする。 ○高齢者体験の写真を提示する等、高齢者の困り事の特徴が表出できるようにする。 ○出会った高齢者を常に思い浮かべながら思考できるよう、高齢者の困り事と解決策を表で整理する。 ○出てきた解決策を継続的なもの、一時的なものに区別して板書し、児童の気付きにつなげたい。	<全体> 総合ノート 写真資料 マトリックス
3. 出された解決策の効果について話し合う。 ・子どもと話す元気になって言っていたよ。 ・学校に招待するのはいいのかな。できれば、やりたいわ。 ・パーティーは、みんなが集まって喜んでくれそう。楽しそう。 ・お互い、話ができるだけでも、少し安心するよね。 ・毎日、顔を見たり、声をかけたることが大切だよ。	○出会った高齢者の生活ぶりに効果があるかを明らかにできるように、「例えば？」と問いかけ、これまでの体験を引き出し共有できるようにする。 ○自分たちの楽しみだけに解決策の内容が終始する場合は、提示した高齢者の姿に立ち返るようにする。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「人と人の普段の関わり」を伝える新聞記事を紹介し、人と人とのつながりを大切にした解決策を考える一助とする。</div> ○個々の意欲を高めるため、これまでの児童の活動に対する高齢者からの手紙を紹介する。 ○コロナ禍を踏まえた考えが出て、活動の可否に話し合いが終始する場合は、自分の学校生活と高齢者の健康面を関連付け判断するように助言する。 ☆高齢者の一人ひとりの困り事の解決に適しているかを判断することができたか。	<ペア> ↓↑ <全体> 新聞資料
4. 学習をふり返る。 ・少しでも、相手を知っていくことが、安心につながるわ。 ・Aさんへの準備を進めるわ。	○本時の学習で学んだことを整理し、次時の見通しを書いている児童のノートを紹介して、今後の学習意欲を高める。	<個人> 総合ノート